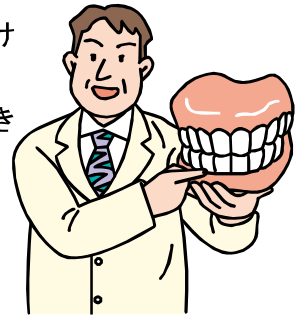




# それぞれの歯の“名前”と“役割”

大人の歯は全部で“32本、8種類”あります（ただし、一番奥の“親知らず”を含めなければ28本です）。この32本の歯には、それぞれにいろいろな名前と役割があります。

そこで今回は、『それぞれの歯の“名前”と“役割”』を皆様にご紹介させていただきます。



**第三大臼歯**  
だいさん だいきゅうし

8番目の歯が“**第三大臼歯**”です。俗に“**親知らず**”とも呼ばれます。親知らずは大人になってから生えてくることが多いですが、中には生えてこない人もいます。

**中切歯**  
ちゅう せつ し

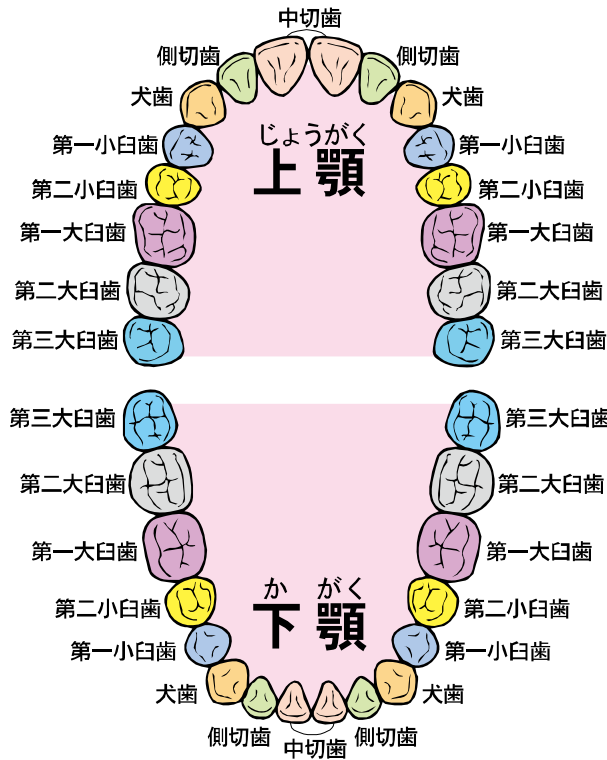
1番手前にある前歯を“**中切歯**”と呼びます。この歯には、食べ物を“**噛み切ったり、ちぎったりする役割**”があります。

**側切歯**  
そく せつ し

中切歯の隣にある歯を“**側切歯**”と呼びます。側切歯も前歯の仲間になります。

**第二大臼歯**  
だい に だいきゅうし

7番目の歯は“**第二大臼歯**”と呼びます。第二大臼歯は大きくて頼りがいのある歯でもあります。この第二大臼歯は12歳頃に生えてくるため、“**12歳臼歯**”とも呼ばれています。



**犬歯**  
けん し

3番目の歯は“**犬歯**”と呼ばれています。犬歯は歯の中で最も寿命が長く、噛み合わせにも重要な役割を持っています。犬歯には食べ物を“**引き裂く役割**”があります。

**第一大臼歯**  
だい いち だいきゅうし

6番目の歯は“**第一大臼歯**”と呼びます。ここから大きな臼歯ゾーンに入ります。この第一大臼歯は6歳頃に生えてくるため、“**6歳臼歯**”とも呼ばれています。この第一大臼歯は、噛んだり、噛み合わせたりするためのとても大切な歯になります。大臼歯は食べ物を“**すり潰す役割**”があります。

**第一小臼歯**  
だい いち しょうきゅうし

4番目の歯が“**第一小臼歯**”と呼ばれ、ここからが奥歯ゾーンに入ります。この第一小臼歯は、臼歯の中で最も小さい歯になります。臼という文字が入る通り、臼歯には食べ物を“**すり潰したり、砕いたりする役割**”があります。

**第二小臼歯**  
だい に しょうきゅうし

5番目の歯は“**第二小臼歯**”と呼びます。この歯も小臼歯の仲間になります。

それぞれの歯は呼び名が異なります。 それぞれに“**食べ物を小さく切ったり、砕いたり、すり潰したり**”などの役割を持っています。

**クイズの答え ③** 乳歯は3歳頃に20本すべて生えそろいます。そして、6歳頃になると徐々に乳歯が抜けて永久歯が生え出し、12歳頃になると永久歯28本すべてが生えそろいます（ただし、個人差があります）。 乳歯は全部で20本、永久歯は全部で28本（親知らずは除く）生えてきます。